



静岡社会健康医学大学院大学 SHIZUOKA GRADUATE UNIVERSITY OF PUBLIC HEALTH



主な共同研究者の紹介



常葉大学健康科学部静岡理学療法学科 教授 静岡社会健康医学大学院大学客員研究員

加藤 倫卓 先生

Michitaka Kato

研究分野 サルコペニア・運動機能

筋肉の病気であるサルコペニアや、健康と要介護状態の中間に位置するフレイルの原因を運動機能面から解明し、要介護や寝たきりの予防に取り組んでいます。



静岡県立大学食品栄養科学部 准教授 静岡社会健康医学大学院大学客員研究員

串田 修 先生

Osamu Kushida

研究分野 栄養・咀嚼

低栄養につながる食べ方を探るため、食事調査や咀嚼機能(噛む力など)のデータの分析を進めています。



京都産業大学経済学部 教授 静岡社会健康医学大学院大学客員研究員

広田 茂 先生

Shigeru Hirota

研究分野 健康の社会経済的要因

問診票にお答えいただいた皆さまの社会や人間についての感じ方・考え方を用いて、健康を支える政策や制度、地域のあり方を考えていきます。



新潟大学医歯学総合病院 講師 静岡社会健康医学大学院大学客員研究員

長谷川陽子 先生

Yoko Hasegawa

研究分野 歯科・口腔機能

お口の健康状態は、さまざまな全身の病気のリスク要因となります。全身の健康とお口の状態の関連性を明らかにし、歯科に関連する病気を未然に防ぐことを目指しています。

大規模コホート研究「かもけん」「ふくけん」のロゴマークは私のデザインです

高齢者にも親しみやすい、鴨とフクロウの健康シンボルを作成しました



ロゴにある「かも研」「ふく研」は、健康の「健」ではなく研究の「研」を採用し、大学の研究室イメージを反映しているのが特徴です。また、賀茂地区は「鴨」、袋井市は市鳥「フクロウ」をモチーフに親しみやすさを重視し、高齢者にも気軽に利用してもらえるシンボルを目指しています。



静岡文化芸術大学 和田和美 先生

コホート事務局の紹介

元気な事務局が、皆さまの大切な健診をしっかりと支えます！

コホート事務局では、市の担当者や関係者との連絡調整、研究資材等の準備、健診のお知らせや結果の発送の他、データ入力、電話対応などを担当しています。先日は、約8,000人にふくけん!健診の予約ハガキを発送しました。明るく楽しい雰囲気での研究の円滑な実施をサポートしていきます！



事務局のメンバー(左から塚本さん、岡本さん、大山さん、小川さん、望月さん)



本大学について

国際社会に貢献する「知と人材の拠点」へ

静岡SPH (School of Public Health)

本大学は、2021年に開学した社会健康医学を学べる大学院大学です。公衆衛生学の5領域を基盤とし医療ビッグデータ解析やゲノム医学、オーディオロジー(聴覚言語学)について学ぶことが可能で、県内外の医師や看護師、また行政の保健師、管理栄養士などさまざまな職種の方が通っています。



今号では世界が注目する「コホート研究事業」を紹介します

コホート研究の紹介

■コホート研究とは？

ヒト集団(コホート)を長期間追跡することで、病気の原因を明らかにする研究手法です。

多くの慢性疾患は、悪い生活習慣が原因で発症します。また、個人の体質(遺伝素因)も関係しています。しかし、生活習慣や体質と病気との関係については十分に明らかになっていません。近年の長寿命化によって社会課題となった認知症や高齢期の虚弱(フレイル)については、なおさら原因の解明が遅れています。

静岡多目的コホート研究事業では、静岡県民の皆さまにご協力いただき、このような未解明の課題を解決することで、静岡県民はもとより人類の安寧に貢献することを目的としています。

社会実装の具体例

かつて我が国では、脳卒中が死因の大部分を占めていました。今や高血圧が脳卒中の最大の危険因子であり、食塩の過剰摂取が血圧を高めることについて疑う余地はありません。しかし、当時はこのことさえ分かっていたそうです。コホート研究の成果として脳卒中と高血圧の関係が明らかになり、国民レベルで減塩と高血圧対策が進んだことが、日本人が世界で最も長寿命になった要因です。健診や診察で使われている高血圧や糖尿病の基準も、コホート研究の成果に基づいています。このようにコホート研究の成果は、私たちの暮らしの中で人々の健康を守るために活用されています。

- ・静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科 教授/研究科長
・京都大学 大学院医学研究科先端・国際医学講座 客員教授
・大阪大学 大学院医学系研究科総合ヘルスプロモーション科学講座 准教授

田原教授に研究内容について伺いました

コホートを育て、病気の原因を解明し、社会に貢献する 博士(医学) 田原 康玄 教授

日本人の特徴は時代とともに常に変化していますので、数十年前のコホート研究の成果を今の日本人にそのまま当てはめることは難しい場合もあります。そのため国内で常に最新のコホート研究が走っていないければ国民の健康を守ることができず、その点でコホートは電気やガス、水道と同じ社会のインフラといえます。

私たちが取り組む静岡コホートは、我が国で最も新しい大規模コホートです。この取り組み

を大切に育て、日本や世界の研究者と叡智を静岡に結集し、予防医学の未来を切り拓く拠点を築くべく日々邁進しています。また、研究成果をいち早く社会に実装することも私たちの使命です。

このような研究は、さまざまな立場の皆さまからのご協力なしには成り立ちません。温かいご支援・ご声援をどうぞよろしくお願い申し上げます。





静岡社会健康医学大学院大学
博士(医学)
浦野 哲盟 副学長
Tetsumei Urano

コホート研究で血栓症リスクを減らしたい

脳梗塞や心筋梗塞等の血栓症は人生が突然一変する怖い病気ですが予防が可能です。本学のコホート研究でもこれら疾患のリスク因子の解明と予防法の確立を目指しています。

前任地の浜松医大で長く血栓症発症の機構を研究してきました。コホート研究では血液検体を採取して食事や運動等の生活習慣と血栓症発症の関連及び遺伝性素因等を解析します。これにより各リスク因子に応じた有効な予防対策の確立を介して個別医療につなげたいと考えています。



静岡社会健康医学大学院大学
博士(医学)
木下 和生 教授
Kazuo Kinoshita

赤身肉の摂取と病気の因果関係を探る

がんの原因としてWHOが2018年に認定した、牛肉や豚肉などの赤身肉にはノイラミン酸Neu5Gc(糖類)が含まれています。Neu5Gcを作る酵素を、進化の中で失った人類は作る事ができません。Neu5Gcが食物から摂取されると、Neu5Gcに対する抗体が弱い炎症を引起し、長い時間をかけて動脈硬化やがんを誘発することが動物実験で示されています。Neu5Gc抗体とがんや動脈硬化との関係を研究し、病気の予防を目指します。



静岡社会健康医学大学院大学
博士(医学)
栗山 長門 教授
Nagato Kuriyama

静岡から疾病予防に役立つ新知見を!

コホート研究は息の長い研究であり、継続性が重要です。その意味では、私は相田みつをの「一生勉強、一生青春」という言葉が好きです。いつまでも真摯に前向きに調査研究をしていきたいと思えます。

主に遺伝子と生活習慣に着目した調査なので、新しい観点での解析方法や研究テーマを考える必要があります。日々試行錯誤しています。自身の専門である認知症や脳血管疾患領域を中心に、静岡から疾病予防に役立つ新知見を発信できるように努めてまいります。



静岡社会健康医学大学院大学
博士(医学)
田中 仁啓 准教授
Yoshihiro Tanaka

心不全や不整脈の新たな解明に挑む

静岡コホートでは、高齢化で今後大きな問題となる心不全や不整脈に焦点を当てた研究を実施予定です。具体的には、一般住民の中に、無症状の心不全患者がどの程度存在するかを明らかにし、無症状の心不全の方々がその後どのような経過を辿るのかを追跡調査予定です。また、脈の乱れと栄養状態のような、一見無関係に思える要因同士の関連性も明らかにする予定です。これらの研究を通し、病気の予防や早期介入を実現し、健康寿命の延伸を目指します。



田原教授のコラム

世界のコホート研究について

米国のフラミンガム心臓研究は1948年に始まり、世界の循環器病予防研究をリードしてきました。我が国では、1961年にスタートした九州大学の久山町研究が最も古く、日本人の疾病予防に必要な科学的根拠を積み上げてきました。京都大学のながはまコホートは我が国最大規模で、生体の微量な分子

と病気との関係を解明することに焦点を当てています。このように、世界ではさまざまな特徴をもった多くのコホートが走っています。1つのコホートでの成果だけでは根拠として不十分なことも多く、世界中から知見を持ち寄って、より確かな科学的根拠を作り上げています。今後、静岡コホートもその一員として貢献していく所存です。

家庭血圧の調査結果

「かもけん!健診」「ふくけん!健診」で、希望者に専用の血圧計を貸し出して測定
**冬場は室温を適切に保つことが、
血圧を高めないために大切であることが分かりました。**

血圧は、夏には低く冬には高くなるがよく知られています。しかし、室温と血圧の関係はあまり調べられていません。かもけん!健診やふくけん!健診では、お揃いの血圧計を使ってご家庭で血圧を測っていただきました。この血圧計には温度計も内蔵されており、血圧を測ったときの室温も記録されています。

そこで、皆さまの測定結果を分析させていただき、血圧と室温との関係を調べました。その結果、**室温が5℃下がると上の血圧が4mmHgも高くなる**ことが分かりました。皆さんが血圧を測ったときの室温はおよそ9~21℃でしたので、**室温の違いは**

10mmHgほどの差に相当する こととなります。

これから寒い季節になりますが、冬の朝は部屋を暖めていただき、血圧が高くないように心がけてください。



静岡多目的コホート研究事業に取り組む全国の大学・研究機関

静岡多目的コホート研究事業「しずおか研究」は 知と人材の集積拠点へ

◎国内協力大学・研究機関



企業との連携	
	大学や研究機関だけでなく企業とも連携して研究を進めています。日々使用する電気の量から具合の悪い高齢者を見つけることができれば、大事に至る前に予防することができます。中部電力と共同して、そのための技術の開発と社会への実装を進めています。
<p>中部電力株式会社 事業創造本部 ヘルシーエイジングユニット 山田 大介さん・杉原 千鶴さん</p>	